

骨粗鬆症の治療薬

骨粗鬆症の治療に使われる主な薬

薬剤名	骨吸収 (骨破壊抑制)	骨形成 促進	特徴
①ビスホスホネート製剤	○		骨吸収を強力に抑えます。毎日服用するお薬や1週間に1回服用するお薬、1か月に1回服用するおくすりがあります。また1か月に1回の点滴注射や1週間に1回服用の経口ゼリー剤もあります。
②抗RANKL抗体	○		骨吸収を強力に抑えます。半年に1回、皮下に注射するお薬です。
③活性型ビタミンD3製剤		○	腸からカルシウムの吸収を促進します。
④選択的エストロゲン受容体作用薬 (SERM)	○		骨など、体の特定の部位のみでエストロゲン様作用として働きます。
⑤ビタミンK2製剤	○	○	骨吸収抑制と骨形成促進の両方の作用があり、骨の新陳代謝を高めます。
⑥カルシトニン製剤	○		骨吸収を抑制するとともに、骨粗鬆症による背中痛みを和らげます。
⑦副甲状腺ホルモン剤		○	骨形成を強力に促進します。皮下注射のお薬で、1日1回と週1回のタイプがあります。
⑧エストロゲン製剤	△		骨を守る女性ホルモンです。閉経後の女性が対象となります。
⑨カルシウム製剤		○	カルシウム不足の方が長期間服用することにより、骨密度が増加します。
⑩抗スクレロスチン	○	○	骨形成を促進するとともに、骨吸収抑制作用を示す。(デュアルエフェクト)

- ① 骨吸収抑制作用は第1 < 第2 < 第3世代の順で強くなる。
第1世代 ダイドロネル
第2世代 ボナロン、フォッサマック、ボンビベ
第3世代 ベネット、アクトネル、ボノテオ、リカルボン、
 ゾメタ（ゾレドロン酸）（点滴静注）、リクラスト（点滴静注）

- ② 破骨細胞分化因子RANKを抑制し骨吸収を抑制。
優れた骨密度増加作用・骨折抑制作用を示す。
プラリアのみ骨粗鬆症に適応あり。
③ プラリア シリンジ60mg 1ml、6か月に1回60mg皮下注

- ③ エディロール（エルデカルシトール）は消化管からのCa吸収促進作用
に加え骨吸収抑制作用があるため（アルファカルシドール）を上回る
骨量増加、椎体骨折抑制効果を示す。
エルデカルシトールのみ妊婦、授乳婦 禁

- ④ サーム、ビビアント、エビスタ

- ⑤ グラケー カプセル15mg 3T ス（後発品メナテトレノン）オステオカルシンのGia化を推進

- ⑥ ③エルシトニン（エルカトニン）

- ⑦ ③テリボン（テリパラチド）、③フォルテオ（テリパラチド）、オスタバロ（アバロパラチド）

- ⑧ 結合型エストロゲンは骨粗鬆症の保険適用なし。
保険適応があるエストリオールやエストラジオールには
エビデンスレベルの高い臨床試験なし。

- ⑨ L-アスパラギン酸C2（アスパーCA）とリン酸水素Ca（第二リン灰）のみ
骨粗鬆症に適応あり。骨密度増加作用、骨折抑制作用ありとされる。

- ⑩ ③イベニティ（ロモソズマロブ105mg）皮下注、1か月に1回210mg皮下注、12か月。
骨折の危険性の高い骨粗鬆症に適応あり。重篤な心血管系事象で死亡例あり。